

しのはらの風 20-11号

小淵沢町篠原区情報紙
発行人; 区長 松井 皎
編集; 藤代 富美男

＜私達は何が出来たのでしょうか＞

平成 20 年度も間もなく終わります。

篠原区では今年度 14 世帯の新規加入があり 2 世帯の脱退がありました。別荘区民では 17 世帯が新たに加わりました。又、区民の中に 2 名の新しい命が生まれ、4 名の方が亡くなりました。

区の行事は多くの方が参加協力して盛大に、また楽しくそれぞれに思いを寄せて行われました。区費としてお預かりした中から寄付金や会費も納めることが出来、社会にいくばくかの貢献も出来たかなと思います。これもひとえに区民の皆様のご理解とご協力のたまものだと思います。ありがとうございます。

しかしこれでいいのでしょうか、という思いもあります。もちろんいいのかもしれませんが。でも住民活動の目的である「快適で安全な地域づくり」ということを考えてみたらまだまだやり残していることが身近にあるように思います。出来るだけみんなにとって快適で、みんなにとって安全であったほうがいいわけです。例えば一人住まいで重いゴミ袋を捨てるのにどうしようかと思悩んでいるお年寄りはいないでしょうか。もしも、その人達が遠慮なく助けを求められるような環境に出来たらいいことではないでしょうか。出来る人は助ける、それは助ける人が助けられることにつながっていくこととなります。本当の助け合いの出来る環境ではないでしょうか。これはもしもの災害が起きた時にも役立つことかもしれません。次年度からはこのようなことにも取り組むことが出来たらいいなと考えます。

まだまだ私達区民には、やれることがたくさんありそうな気がします。

＜定期総会が開催されます＞

来る 4 月 5 日(日)午後 1 時半から篠原区の定期総会が篠原公民館で開催されます。年に一度の区民全体の会議の場です。

定期総会では 20 年度の活動報告と会計報告、21 年度の事業計画と予算の計画が提出され区民の皆さんの承認を頂くようになります。「知らないうちに進んでいて、なんだか 1 年が経ってしまって、また区費を払うのか」なんて言っていないで出席して疑問、質問があったらどしどし発言してください。

今回の総会は事前に議案書がお手許に届けられますのでお目通しいただいて、問題点などをピックアップしておいて参加してください。

ご都合があって出席できない方は、3月31日までに総会案内に添付されている委任状を組長に提出してください。委任状も総会成立の大切な要件になります。

また、総会が終わったあとには区民の皆さんの親睦を深める目的で懇親会を用意しています。ささやかですが軽いお食事もありますので新しく加入された方との話や久しぶりの情報交換に役立ててください。お食事にはアルコールも用意しますが車でご出席の方は絶対に飲まないでください。飲まれる方は車で来ないでください。もし、このことが守れなかったという話が出たら来年度から懇親会は中止せざるを得なくなるようになります。

役員の顔を確認していただくのもいいかと思います。どうぞ皆さん出席してください。椅子が足りなくなるくらいに参加していただくとうれしいですね。そのときはみんなで譲り合って何とかしましょう。

<資源ゴミについての質問にお答えします>

資源ゴミの回収日が毎月第3土曜日の9時から11時の間になってから1年が経ちます。その間何度かこの紙面でもお知らせしてきましたが、時々、各組の環境部員や組長さんに質問や相談があると聞いています。金曜日に「明日は用事があるので今日捨てていいか?」とか、「土曜日は資源ゴミの日だから金曜日の晩に捨てるよ」という話です。ご都合があって困っている時にはお互い様ですから各組の環境部員に相談していただいて結構だと思います。お預かりするなりなんなりしてくれればいいと思います。

しかし原則はご理解ください。第3土曜日の9時から11時までとしてあるのはその時間に市の委託を受けた回収業者が資源ゴミを回収に来るためです。その時に当番の組の人が皆さんから手渡しでお預かりした資源ゴミを分類して置いときます。そして回収車が来た時には皆で回収車に積込んでスムーズ（それでもかなり大変な作業なんです）に行われます。ですから前日（金曜日）の晩に捨てたのでは前月の第3土曜日の午後に捨てたのと変わりがないことになります。第3土曜日の9時から11時でないといけないのです。各組当番で行う作業ですからできるだけ負担をかけないようにご協力をお願いします。

<伝言板（仮称）コーナーの開設について>

区民の皆さんのご家庭で不要になったものや、余ってしまったものを貰ってくれる人を探したり、ペット(犬や猫等)を差し上げます、あるいは欲しいけど誰かくれませんかといった情報の中継点となる伝言板的なコーナーを設けたいと思っています。内容は善意と良心にゆだねたいと思います。受け付けはとりあえず編集者の藤代が窓口になります。メールか電話で受け付けます。あるいは書いたものを藤代の郵便受けに入れていた

だいてもかまいません。先々を考えると個人が窓口になることに問題があるかも知れませんが当面やむをえないでしょう。この「しのはらの風」はだいたい毎月 15 日に発行します。予定を考慮して申し出てください。

<参考例>

- ・ 子犬差し上げます（オス、今年 1 月生まれ、雑種）○組△△△△Tel。。。。。
 - ・ ゴミ捨てお手伝いします。どの組でも結構です。電話ください。○組△△△△Tel
 - ・ 自転車差し上げます。ロードレーサー2 年（新品同様）○組△△△△Tel。。。。
 - ・ 送迎します。気軽に連絡ください。○組△△△△Tel。。。。
 - ・ 子猫が欲しいのですが。連絡ください。○組△△△△Tel。。。。 等々
- コーナーの名前も募集したいと思います。名付け親になってください。

Mail: shinohara.mytown2009@gmail.com Tel36-3483

<開拓の思い出>

今回は「思い出色々」です。1 年を通じて開拓にまつわる話を転載してきましたが残り僅かになってきました。忘れてはいけないことも沢山ありますね。

「開拓の思い出」

十五、思い出色々

志村 卓爾

大豆を加工して豆腐、氷豆腐を造り東京へ売りに行ったこと、氷豆腐の失敗の話仲間の家に氷豆腐の乾燥を依頼したところ或家では廻りの壁がカヤを使用してあったので家の中に下げてあった氷豆腐が北西の風の砂ぼこりで黒くなり商品にならず大失敗。出来上がった氷豆腐を破損しない様に石油缶の空き缶に入れて東京へ売りに行く。当時青年の人たちは娯楽の少ない頃ダンスを清水あさよさん大古勇さん達の指導で分校の行動で盛んに行い、小淵沢本町公民館でダンスパーティーを催すなど一時期大変な人気でした。農閑期の娯楽として青年会の方達（会長 前原和知さん）が米を軍隊の靴下に入れ腹へ巻き、米と卓球台と交換してもらいに東京神田の知人の処へ行き卓球台を入手、分校に置き一時期盛かんに行われ青年の憩いの場所として使用された。

又、中学生に卓球選手が多く篠原から生まれた歴史があった。雨でも降れば分校の講堂に集まりダンスや卓球をやり楽しんだ時期も長く続き其の後子供クラブに任す。

現在の帝京の山林の中（当時篠尾村管理）の県有地に昭和二十三年頃少年保護院が臨時ではあったが作られ、若者十数人収容され院長夫妻と松向神田の田中豊さんが指導員として毎日通勤して来た。時代が変わって行くに従って閉院となり跡地を篠尾中学校の学校林に変え中学生が毎日カラ松の植林作業に交代で来た、今日では立派なカラ松林になり其の後町村合併に依り小淵沢中学校林になり中学校建設資金に帝京大学へ売却する。

又、板山さんの下の小海線の踏切脇に昭和十九年八ツ岳の大火事に依り焼けた木材を

積出す仮ホームがあった。仮ホーム迄通ずる山からトロッコの線路が棒道の上から布施してあり焼けた木材の運搬に役立てていた。又中矢さん西の道五号線の踏み切りの横には戦争当時上笹尾の山中に保管してあった油の入ったドラム缶の積みおろしに使用した仮ホームがあり戦争中、山中に貯蔵した油類が沢山上笹尾借地林内に横穴を掘って埋めてあった。中矢さんの角に監視小屋があり小淵沢の方が毎日勤務していた。

戦後も八ツ岳山麓は山火事が度々あり我々が入植後も山火事を消しに出動、消しきれず権現岳の雪のある所まで焼けて行って自然に消えるのを待つと云ったこと、富士見より山火事が来て大泉駅の附近迄焼けて来て鉄道官舎が焼けた話も聞きおぼえがある。小海線は当時蒸気機関車だったので篠原地内へ来る頃には蒸気が上がりその度に石炭をたきなおさないと走れなくなる。一度止まって石炭のたき直しをする石炭のもやしからを落とすためその火が枕木や附近の枯草にもえうつり山火事が起きる。昼頃通る列車の度に松葉の枝を持っては、消火に出動、汽車がジーゼルに変わり山火事も無くなる。当時は植樹したばかりで大きな木が無く大雨が降ると道は川となり隣の家に行くにも川の中を横切っていくこと度々。台風で大雨が降ると大水となり高川やふるすま川など鉄砲水で泥と石が混ざって流れる。その音の凄まじさ、荒れて流れる音が聞こえて来て何度か川迄見に行き出水の恐しさには驚き、目の回る様でした。山々に植林し木が大きく成長し又木を育てることの大切さを身を持って知ることが出来た。最近では大水はなくなつた。伊勢湾台風の直撃を受けた時は畜舎の屋根が吹き飛ばされて畑の向こうに落ちていた家、第四組では防風林際の家三枝さん、名倉さん、窪川さん、大古さん達の家は倒壊。近所の皆さんや他組の方々達が急遽駆けつけた。その被害の大きかった事、名倉さんの家では倒壊した家の中に皆さん無事に居られた悲惨な状況で、行政で被害の様子を見に来られ急いで仮設住宅を造ってくれ急場を凌いだ。私の家では硝子障子が弓の様になりはずれそうになったので畳を立て掛け皆んなで支え倒れる事をまぬがれるなど被害が大きかった事。

秋から冬にかけての作業は冬季間の長い間の薪の確保で長い竹竿の先に鎌を取付けて松の大木の枯枝を折り薪の確保に一生懸命だった。昔から薪の沢山ある家ほど有福の家だそう。歴代組合長の組合整理の話苦労しました。経理の正しい整理に欠けていて警察にも呼び出されたこともあり何ヶ月か掛け原川さんと二人での帳簿の整理も立派に出来上がり保管した。整理にあたった者でなければ知るよしもない。経理の経験のない人達が組合の会計係になるので当然と云えば当然のように思われる。

現在のゴルフ場の一部三十六町歩篠原開拓者共有地と其の下高橋不動産所有地を含む土地を組合借入金の返済等の整理売却三十六町歩の耕地は当時牧草地として又土地改良モデル地域として造成し県知事天野久さんも状況視察に来られた。種馬鈴薯の共同圃場にもなった。其の後一部にカラ松の植林をし、現在のゴルフ場の中の大きなカラ松は我々が植林した木が残っている。